

西部区域(水産)プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成24年度)

達成状況判断基準: 100%以上→「達成」、80%以上100%未満→「概ね達成」、80%未満→「未達成」

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率					達成状況
			項目名	H24目標	H24実績	単位	達成率	
西部-1	大田地区漁業・流通機能の再編整備プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 資源回復計画に基づく漁業者の取り組みが定着するとともに、直巻きリールを導入した小底のモデル漁船の実操業により、小底の漁業者が省人化の効果について実感されている。 漁獲物の規格化に向けた先進地調査と小底業者への全体報告、市場関係者との意見交換を行うことで、小底の漁獲物の高鮮度化や規格化について検討され、一部の魚種で計量・販売が開始された。また、新たな統合市場を想定した和江地区への漁獲物の合同試験出荷・販売により、市場統合後の集荷体制や運営にかかる検討が進められている。 新たな冷凍技術による業務用商品が開発されつつあり、そのメリットを地域内外にPRすることで、新たな需要の掘り起こしが期待できる。 	小底1ヶ統あたりの水揚げ金額(漁期年)	38	39	百万円	103%	達成
			大田地区市場における水産物の平均単価	361	377	円/kg	104%	達成
西部-2	浜田地域水産業構造改革推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 沖合底びき網漁船1ヶ統2隻で、国の認定を受けた改革計画に基づき、船体の大規模改修(リシップ)工事を実施した。また、リシップ漁船の乗組員を対象に漁獲物高鮮度化の研修会の開催等を行った。 浜田沖底業者が乗組員確保のため初めて全国漁業就業支援フェアに参加し、1名の新たな乗組員を確保したが、依然として後継者は不足しているため、今後も継続したリクルート活動が不可欠である。 どんちっち三魚について、ブランド力の弱いカレイ類の規格の見直しや市場での識別販売の改善を行ない、ブランドの定着化が図られた。 沖底リシップ船において、漁獲物高鮮度化の取り組みが始まった。全ての漁獲物の高鮮度化処理を行なえる体制確立までは至っていない状況。市場買受人を対象とした現時点でのアンケート結果からは、品質に対する買受人の評価の向上には、ある程度時間がかかることが想定される。 浜田水産高校で地元水産関連企業における職場実習や水産物を使った新商品開発が行なわれ、生徒が地元水産業に関わる多数の機会が設けられた。 	沖底1ヶ統あたり水揚げ金額	300	258	百万円	86.0%	概ね達成
			水産高校からの地元水産関連企業への就職者数	10	13	人	130%	達成
西部-3	天然アユが復活する石見の豊かな川づくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 漁協が主体となった産卵親魚の保護や産卵環境の整備等、天然遡上アユを増やす取り組みについては、ほぼ定着しつつある。 今シーズンは、地場産アユの放流や天然遡上の状況も比較的良好であったが、夏以降の湧水や高水温により、アユの漁獲も低調に推移せざるを得ない1年となった。 H24年の流下仔魚数(暫定値)についても、湧水等の影響により、江川・高津川共に前年を下回る厳しい結果となったが、両河川のアユ資源増殖に向けて、粘り強い対応が必要。 	地場産種苗の生産尾数	350	345	万尾	99%	概ね達成
			流下仔魚数(高津川)	31	8	億尾	26%	未達成
			流下仔魚数(江の川)	5	18	億尾	360%	達成